

金剛萱遺跡の旧石器文化5－2019－

Palaeolithic Culture of the Kongogaya site 5, 2019

金剛萱遺跡研究会*¹

Kongogaya site research group

キーワード：旧石器時代，石器，発掘，無斑晶質安山岩，接合資料

Key words : Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, refitted artifacts

はじめに

- 1 本書は，金剛萱遺跡における旧石器時代の遺跡調査に関わる報告書であり，2019年分をまとめたものである。
- 2 調査は，金剛萱遺跡研究会が下仁田町教育委員会の指導・協力を受けて実施した。
- 3 本書は，調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に，基礎資料を提示することに重点をおいた。
- 4 本稿の編集・執筆は，中村由克，麻生敏隆，須藤隆司，小林忠夫，斎藤尚人，寺尾真純が担当した。
- 5 調査によって出土した諸資料は，下仁田町自然史館で保管している。

坦な緩傾斜地から山頂まで含めたエリアを金剛萱遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録した。

林道地点は2011年5月に大露頭より1段高い緩傾斜地の中で下仁田ローム層上部層まで削られた切り通しの作業道で発見された。2011年～2013年の発掘成果は，金剛萱遺跡研究会（2016）に，2015年～2016年の発掘成果は，金剛萱遺跡研究会（2017）に報告した。2017年4月（第6回）と同年10月（第7回）の発掘調査の成果は金剛萱遺跡研究会（2018）に報告した。2018年4月28日～4月30日（第8回）と同年10月28日・29日（第9回）の発掘調査の成果は金剛萱遺跡研究会（2019）に報告した。

本報告は，2019年4月27日～4月29日（第10回）と同年8月31日・9月1日（第11回）の発掘調査の成果を記載する（第1表）。

調査の経過

金剛萱遺跡は2007年8月にその存在が知られ，2009年4月に遺跡であることが判明し，金剛萱遺跡研究会が結成された。2009年11月の調査で旧石器時代から縄文時代の遺物散布地が広がっていることが推測され，下仁田町教育委員会が金剛萱の北麓の平

遺跡の環境

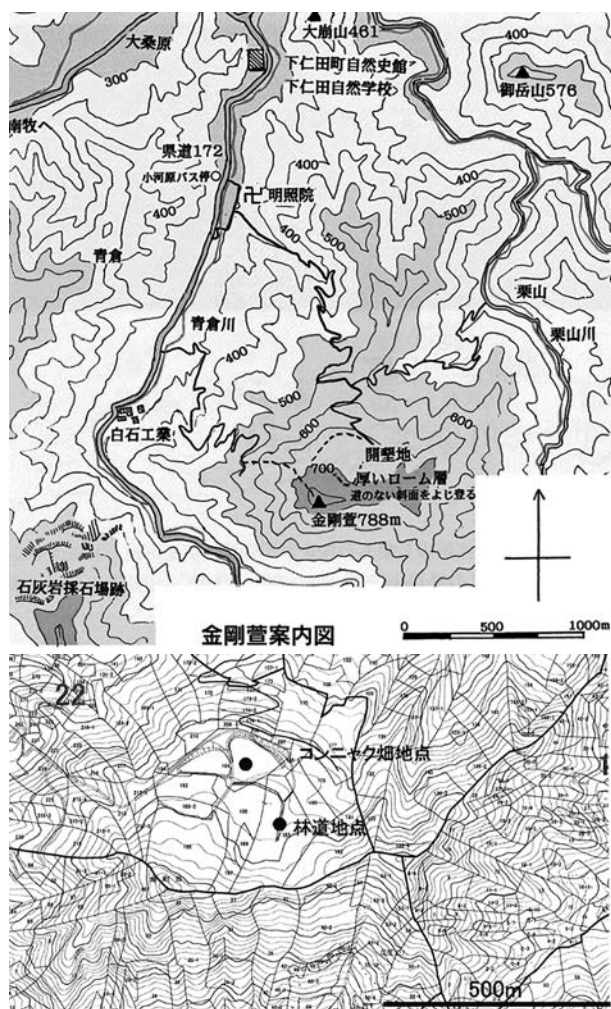
下仁田町は地質上，西南日本と東北日本の接点にあたり，ほぼ東西方向に中央構造線がとおり，その一部分である大北野－岩山断層より南側には，三波川結晶片岩・御荷鉾緑色岩類や秩父帯などの古期岩類がつくる山地が分布し，金剛萱の山頂から遺跡の

2020年3月6日受付。2020年3月12日受理。

*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan (naka-m@opal.plala.or.jp)

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期間	人数	出土点数	人工品	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	剥片, 石斧調整剥片?
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	剥片, 石斧調整剥片?
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	削器, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	折断剥片, 剥片
第7回	2017.10-28	6	5	5	折断剥片, 剥片
第8回	2018.4.28-30	25	23	19	折断剥片, 剥片, 碎片
第9回	2018.10.27-28	8	2	2	折断剥片, 剥片
第10回	2019.4.27-29	21	35	34	折断剥片, 剥片, 碎片
第11回	2019.8.31-9.1	11	7	7	二次加工剥片, 折断剥片, 剥片
		193人	149点	117点	
	期間	人数	場所	主な調査内容	
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査	
	2017.9.23-24	9	馬山, 町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査	



第1図 金剛萱遺跡林道地点の位置

ある緩傾斜地は秩父帯の分布域にあたる。

調査地の金剛萱は鐮川支流の青倉川東にそびえる標高 788 m の独立峰で、山頂のすぐ北側には緩傾斜地が広がっている。今回の発掘地・林道地点は2か所の畑地（コンニャク畑地点）よりさらに高い場所にある平坦な場所である。東西方向に延びる金剛萱の山頂部の北斜面が大規模地すべりにより急斜面となっている（大規模地すべり研究会 2016）が、その斜面直下に広がる平坦地の一角に当たる（第1図）。調査地付近は地形図以上の正確な標高が求められず不明であるが、国土地理院の電子国土 WEB から読み取った標高は、コンニャク畑地点が約 680 m、林道地点が約 695 m である。

下仁田地域で遺跡が多く立地するのは、鐮川右岸の馬山丘陵である。下仁田 IC の場所にある下鎌田遺跡から南西に長尾根遺跡、観音寺原遺跡、富士塚遺跡、米山遺跡など縄文時代と古代を中心とする遺跡がほぼ連続的に分布する。下鎌田遺跡と米山遺跡では発掘調査時に旧石器時代の遺物も少量ではあるが出土している。富岡市域にあたる鐮川左岸や丹生川流域にも縄文や平安時代の遺跡が散在する。現在までに下仁田町では、旧石器時代の遺跡は金剛萱遺跡と下鎌田遺跡、米山遺跡の3か所が知られている。

金剛萱遺跡林道地点の調査

1 調査地の状況と調査の概要

発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林のなかにある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）より南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である。この場所では作業道は原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、ローム層が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しなくても目的とするAT層直下の暗色帯が調査できる状況となっていた。

発掘地における地質層序（関東火山灰グループ2009）は、作業道部分では地表からかなり削平されている状態であった。上位より表土が0~20 cm、10~20 cm黄褐色ローム層、0~20 cm褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）、20 cm黄灰色ローム層、13 cm赤褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）、10 cm黄褐色ローム層、5 cm±明褐色砂質風化火山灰層（始良Tn火山灰：AT）、15 cm黄褐色ローム層、10 cm暗褐色ローム層（暗色帯）、4 cm±明黄褐色軽石層（Yt-Pm4）、25 cm暗褐色ローム層（暗色帯）という層位である。剥片等の遺物は、このAT層準から下位の暗色帯付近に多く出土しており、特にYt-Pm4付近が安山岩石器群の生活面とみられる。

2 林道地点の調査経過

第10回発掘（2019年4月27日-29日）：作業道がローム層まで削って作られている場所に、道路部分にそってほぼ南北方向の調査区を設定。2018年までの発掘地をそのまま掘り進み、D5~D7、E5~E7、F5~F7グリッドのなかに4 m×5 mの範囲内を調査した。掘削はすべて手掘りで、遺物包含層が予測される暗色帯を掘りきるまで、遺物包含層の掘り残し部分を掘削し、無斑晶質安山岩の折断剥片、剥片等が集中して出土した。

第11回発掘（2019年8月31日・9月1日）：第10回の調査区を引き継ぎ、全体を掘り進めた。無斑晶質安山岩製の二次加工剥片、折断剥片、剥片等が出土した。

なお、遺物の垂直位置は、第1回発掘以降、調査

グリッド北西端のA杭（E0より1 m南）を基準として、+200 cmにレベルを設定して発掘地および出土品の位置を計測している（金剛萱遺跡研究会2017）。第1回~第11回の発掘で出土したすべての遺物の分布図を第2図に示す。

3 旧石器時代の遺物

金剛萱遺跡林道地点の第10回発掘調査で出土した資料は、総数35点である。第11回の発掘調査で出土した資料は、総数7点である。緑色岩の石片1点を除き、すべて無斑晶質安山岩製である。

以下は第10回・第11回の発掘調査で出土した主要な遺物を記載する（第3図、第5図；以下図中の番号を表記する）。

1、2は二次加工剥片である。1は厚手の縦長剥片が素材となり、主剥離面の右側縁に荒い平坦な調整が入れている。また、打面の一部に刃潰し加工的な細かな調整が入れている。剥片の末端側には大きな剥離で薄くされて尖頭状になっている。2は厚手の横長剥片が素材となり、主剥離面と背面の両面の側縁に調整が入られて形状が整えられている。もう一方の側縁の背面側に大きな調整で尖った先端が作られている。1、2ともに円形の基部をつくり出し他端は尖った形状になっており、尖頭部を作り出した「尖頭状の基部整形石器」ともみられる。

3・4は折断剥片2点の接合資料である。薄手で大きな剥片の先端部を折り取り、さらに2分割したものである（第4図3、4、3+4）。

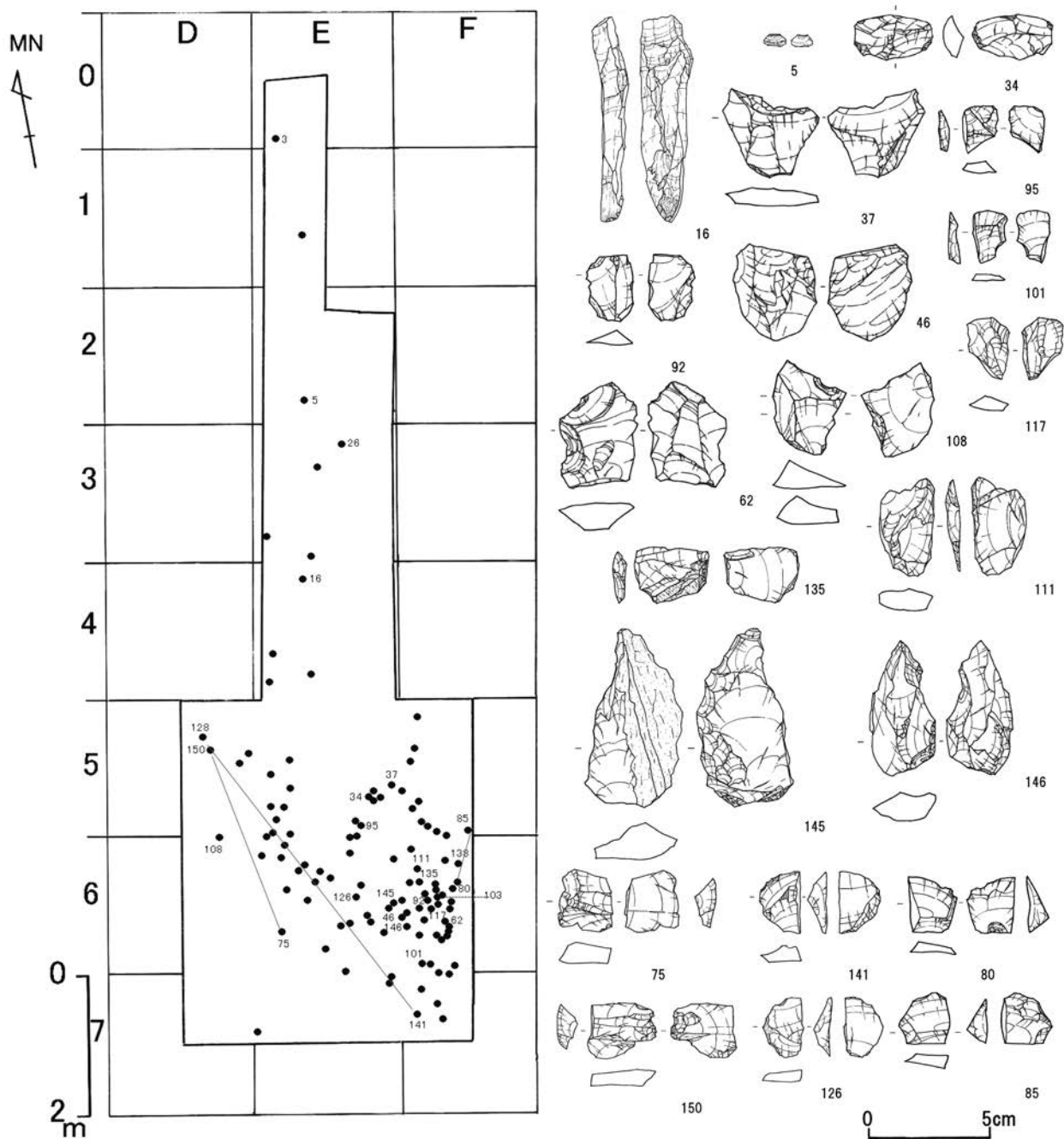
5は折断剥片で、1704-75と接合する。短い縦長剥片を2分割したものである。打面には剥離後に調整が入れている（第4図5、6、5+6）。

6~9は折断剥片である。6はやや厚手の縦長剥片の末端側を折断で除去している。主剥離面側の図の下端には幅広い折断で厚みを取り、尖った形状に仕上げている。

7は小さな縦長剥片の末端部を折断で除去したものである。

8は幅広剥片の末端部を折断で除去したものである。

9は折断された剥片の末端側である。



第2図 金剛萱遺跡林道地点の石器分布図

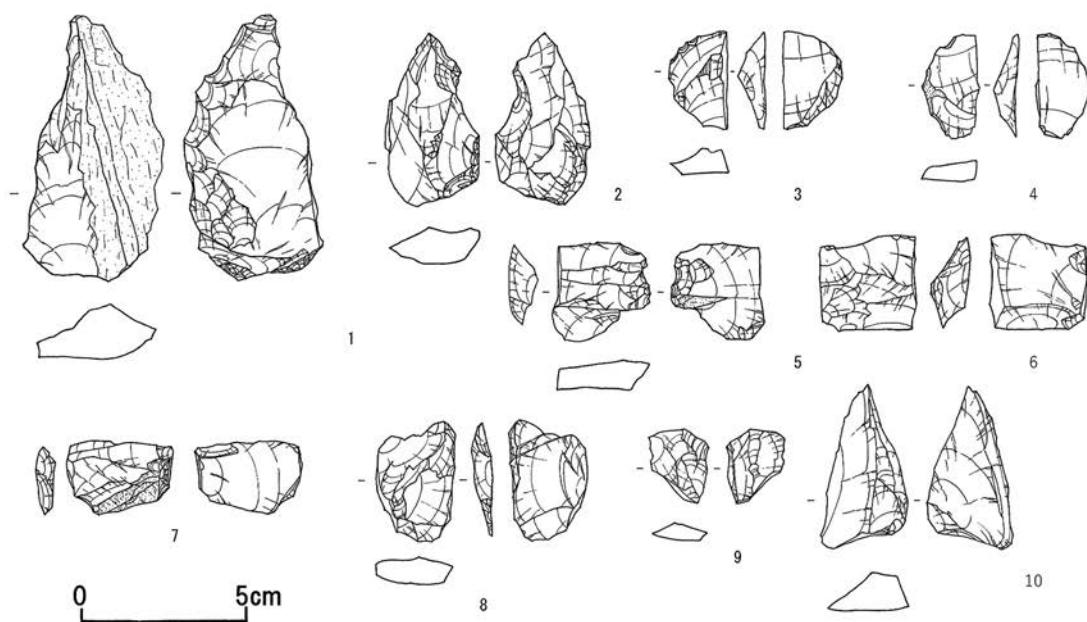
10は厚手横長の剥片である。二次加工や微細剥離痕はみられないが、整った形状をしている。

第5図の11～15は厚手の不定形な剥片である。

いずれも節理面を思わせるような流理構造をもち、風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な無斑晶

質安山岩であり、八風山産と推定される。

おもな遺物の出土層序はATより下位の暗色帯中で、年代は約3.8～3.2万年前、群馬編年のI期からII期にかけての時期（小菅ほか 2004）、武蔵野編年のX層からIX層にかけてと比定される。



第3図 第10回・第11回発掘出土遺物の実測図

金剛萱遺跡第10回・第11回発掘調査の意義

林道地点第10回・第11回発掘では、第9回までに調査していた場所を掘り下げた。前回までと引き続き、暗色帯中の無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、打面調整があまり行われず、平坦打面によるやや厚めの幅広で寸ぶまりの剥片剥離がおこなわれていること、定型的な石器完形品はなく、剥片等が中心であることなどの特徴がみられる。現在までに、このブロックの中から接合関係は3組判明した。第4図の1, 2はNo80, No85（金剛萱遺跡研究会 2019の第4図の4, 5）である。第4図の3, 4, 5は第3図の同番号のもので、第4図の6はNo75（金剛萱遺跡研究会 2019の第4図の3）である。これらはいずれも鋭い縁辺をもった薄い剥片を2分割したものであり、それぞれ折断剥片ができています。これ以外の接合関係は不明である。ただし、石質をみる限り、多くの母岩が持ち込まれており、相互の接合関係は容易に認められない状況である。また、石核を保有しないことは特徴的である。このことは、この石器群が剥片剥離の初期

段階のものではなく、鋭い縁辺部を持つ利用可能な剥片を集めたものが多く、剥片を折断加工して台形様石器としての用途で利用したと推定される。

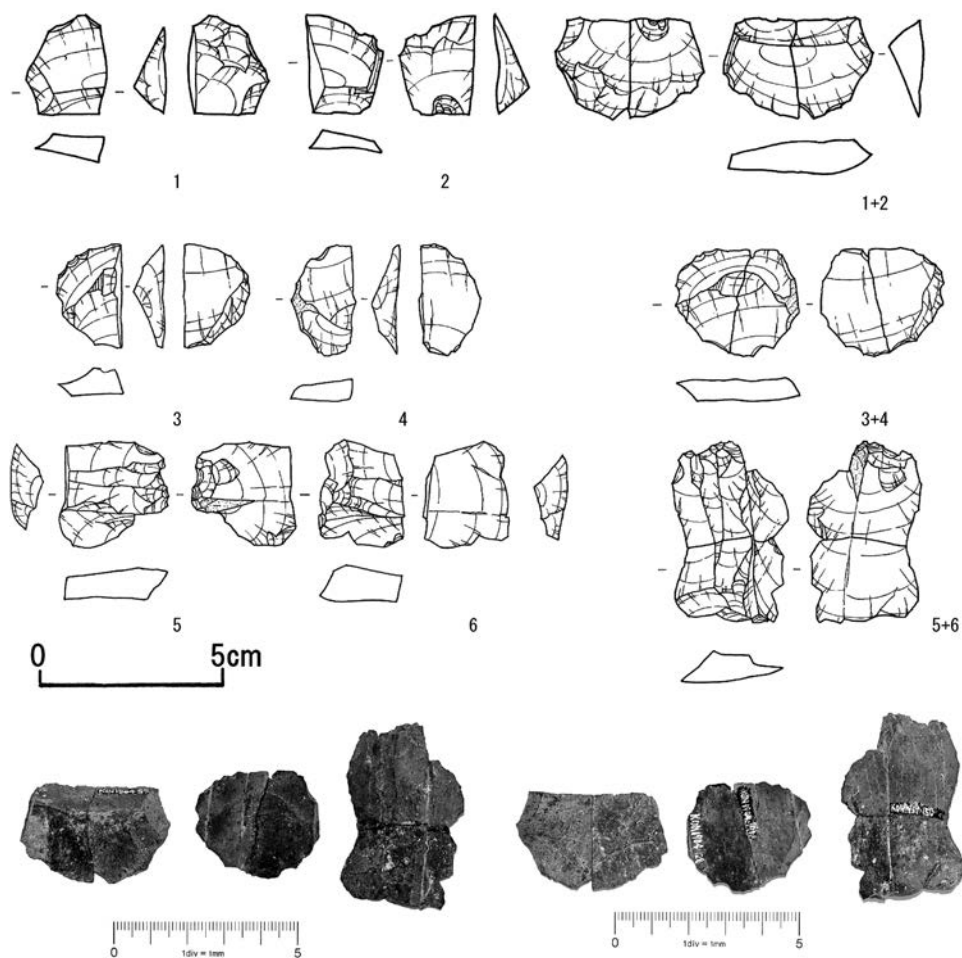
2014年の第2回発掘では、本ブロックから約5m北側のE3グリッド北部より局部磨製石斧（中村・保科 2016）が出土している。石斧はブロック外の単独出土であるが、今回の無斑晶質安山岩製石器群と同時期か比較的近いものと考えられる。局部磨製石斧と台形様石器としての機能を有する「折断剥片」に代表される後期旧石器時代前半期の初期の所産と考えられる。

ただし、このブロックの剥片の多くが厚手で、中には砕けたような形状の剥片も多く含まれること、定型的な石器が含まれず、「尖頭状の基部整形石器」とも思われる不定形な二次加工剥片を組成すること、さらに層位はATより下位で約32,000年前と推定されるYt-Pm4の付近に主要な包含層があることなどから、後期旧石器時代前半期の中でも初期の時期に属すものの可能性もある。

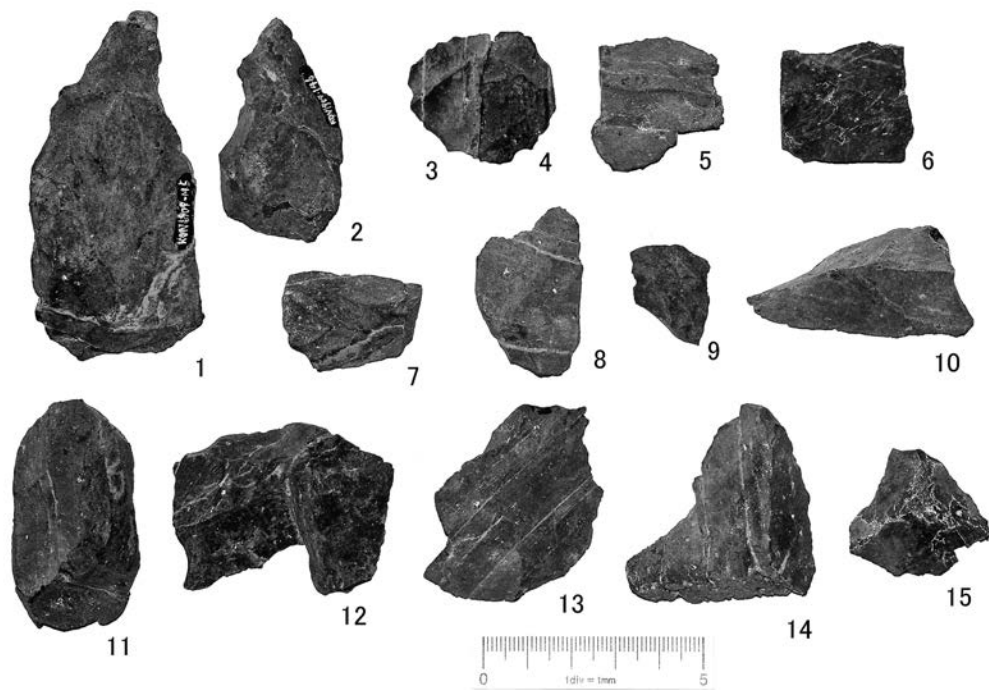
金剛萱遺跡林道地点の石器群は、概略、岩宿遺跡（岩宿I石器文化）と同じ時期にあたり、群馬県西部から長野県東部では、甘楽町（甘楽SA）の白倉下原遺跡、天引向原遺跡や安中市の古城遺跡、佐

第2表 金剛萱遺跡・林道地点第10回・第11回発掘出土の遺物一覧

No.	3・5図	遺物番号	名称	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	深度cm	備考
1		KON1904-109	剥片	無斑晶質安山岩	10.9	20.4	6.1	1.3	172	
2	11	KON1904-110	剥片	無斑晶質安山岩	52.2	29.5	18.2	31.4	162.5	
3	8	KON1904-111	折断剥片	無斑晶質安山岩	29.5	36.9	9.5	8.6	160	
4		KON1904-112	剥片	無斑晶質安山岩	13.4	14.2	7.5	0.6	164	
5		KON1904-113	剥片	無斑晶質安山岩	13.2	19.6	9.6	2.6	160	
6		KON1904-114	剥片	無斑晶質安山岩	31.6	13.1	5.9	3.1	156	
7		KON1904-115	剥片	無斑晶質安山岩	28.7	23.1	11.4	7.6	158.5	
8		KON1904-116	剥片	無斑晶質安山岩	19.5	29.7	9.3	5.3	156.5	
9	9	KON1904-117	折断剥片	無斑晶質安山岩	18.1	25.3	4.9	2.0	166.5	
10		KON1904-118	剥片	無斑晶質安山岩	17.3	17.9	4.6	1.7	164	
11	15	KON1904-119	剥片	無斑晶質安山岩	28.5	28.3	11.2	7.6	160.5	
12		KON1904-120	碎片	無斑晶質安山岩	6.6	12.1	3.2	0.1	162.5	
13		KON1904-121	剥片	無斑晶質安山岩	9.7	16.3	2.4	0.4	164.5	
14		KON1904-122	碎片	無斑晶質安山岩	4.2	12.3	1.9	0.0	155	
15		KON1904-123	剥片	無斑晶質安山岩	30.2	46.9	17.6	22.4	146.5	
16		KON1904-124	剥片	無斑晶質安山岩	31.7	16.1	12.2	7.0	159.5	
17		KON1904-125	剥片	無斑晶質安山岩	14.1	13.8	4.3	0.8	161	
18	10	KON1904-126	剥片	無斑晶質安山岩	26.7	47.2	13.1	13.3	166.5	
19		KON1904-127	剥片	無斑晶質安山岩	—	—	—	—	180.5	遺物無し
20	4	KON1904-128	折断剥片	無斑晶質安山岩	16.9	30.9	7.4	3.8	191	141と接合
21		KON1904-129	剥片	無斑晶質安山岩	18.7	9.8	5.9	1.1	187.5	
22		KON1904-130	剥片	無斑晶質安山岩	34.1	46.4	8.9	8.2	185.5	
23	12	KON1904-131	剥片	無斑晶質安山岩	45.8	50.6	16.3	29.1	166.5	
24		KON1904-132	碎片	無斑晶質安山岩	8.5	8.4	1.7	0.2	175	
25		KON1904-133	剥片	無斑晶質安山岩	6.6	23.4	3.9	0.6	178.5	
26		KON1904-134	碎片	無斑晶質安山岩	5.6	17.2	1.9	0.1	169.5	
27	7	KON1904-135	折断剥片	無斑晶質安山岩	31.2	22.9	9.3	6.8	168	
28		KON1904-136	剥片	無斑晶質安山岩	31.3	21.2	9.1	6.9	182	
29		KON1904-137	剥片	無斑晶質安山岩	9.5	10.7	2.8	0.3	174	
30	6	KON1904-138	折断剥片	無斑晶質安山岩	28.7	29.2	11.6	11.9	145	
31		KON1904-139	碎片	無斑晶質安山岩	9.6	12.5	4.4	0.5	175	
32		KON1904-140	剥片	無斑晶質安山岩	17.2	13.2	4.6	0.9	171	
33	3	KON1904-141	折断剥片	無斑晶質安山岩	17.9	28.9	7.6	3.4	174.5	128と接合
34		KON1904-142	石片	緑色岩	55.2	31.7	16.9	27.8	212	
35		KON1904-143	碎片	無斑晶質安山岩	4.1	11.4	2.7	0.2	170.5	
36		KON1908-144	剥片	無斑晶質安山岩	21.9	21.6	8.3	2.9	178.5	
37	1	KON1908-145	二次加工剥片	無斑晶質安山岩	81.1	39.2	17.4	45.8	179	
38	2	KON1908-146	二次加工剥片	無斑晶質安山岩	52.3	28.7	11.9	15.4	178	
39	13	KON1908-147	剥片	無斑晶質安山岩	35.7	51.8	18.1	24.3	179.5	
40		KON1908-148	剥片	無斑晶質安山岩	30.9	22.4	11.4	7.8	169	
41	14	KON1908-149	剥片	無斑晶質安山岩	44.4	43.4	18.3	22.0	171	
42	5	KON1908-150	折断剥片	無斑晶質安山岩	30.2	30.1	9.4	8.4	203	75と接合



第4図 金剛萱遺跡出土の接合資料



第5図 金剛萱遺跡第10回・第11回発掘出土の石器

久市八風山遺跡群、立科F遺跡などこの時期の良好な石器群が知られている（金剛萱遺跡研究会ほか 2014）。金剛萱遺跡は地理的にはこれらの中間を埋める位置にある。金剛萱遺跡は、標高 680 m 以上の独立峰の高い山の山頂近くに立地しており、このような場所にある後期旧石器時代前半期の遺跡は珍しい存在である。なぜこのようなところに遺跡があるのかは、今後とも究明すべき課題である。

謝 辞

金剛萱遺跡の発掘調査にあたっては、地主の泉英明様に多大なお世話になった。この場をかりて御礼申し上げる次第である。

文 献

大規模地すべり研究会（2016）地すべりによる金剛萱遺跡の平坦面形成。下仁田町自然史館研究報告，1，25-36。
関東火山灰グループ（2009）群馬県甘楽郡下仁田町でみつかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告，13，87-93。
小菅将夫・大工原 豊・麻生敏隆，2004，群馬の旧石器。

みやま文庫，175P。

金剛萱遺跡研究会（2016）金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告，1，1-20。
金剛萱遺跡研究会（2017）金剛萱遺跡の旧石器2-2015・2016-。下仁田町自然史館研究報告，2，51-58。
金剛萱遺跡研究会（2018）金剛萱遺跡の旧石器3-2017-。下仁田町自然史館研究報告，3，23-26。
金剛萱遺跡研究会（2019）金剛萱遺跡の旧石器4-2017・2018-。下仁田町自然史館研究報告，4，37-44。
金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著，2014，金剛萱に旧石器時代をさぐる-金剛萱遺跡と下仁田ローム層-。下仁田自然学校文庫8，56p。
中村由克・保科 裕，2016，金剛萱遺跡の局部磨製石斧の石材とその意義。下仁田町自然史館研究報告，1，21-24。

発掘調査参加者

2019年春の調査（2019年4月27日-29日）

赤岡 明，麻生敏隆，新井青里，新井佐和子，新井のりやす，新井美保，新井ゆきね，小須田弘幸，小林忠夫，小林康夫，須藤隆司，寺尾真純，寺嶋みゆき，中川知津子，中条朱璃，中条拓也，中塚博子，中村由克，深沢科子，深沢哲治，渡邊貴紀 以上21名

2019年夏の発掘（2019年8月31日・9月1日）

麻生敏隆，大岡康治，小林忠夫，小林康夫，斎藤尚人，菅谷浩之，須永欣伸，寺尾真純，寺嶋みゆき，中村由克，若江 智 以上11名

（要 旨）

金剛萱遺跡研究会（2020）金剛萱遺跡の旧石器文化5-2019-。下仁田町自然史館研究報告，5，27-34。

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で、2019年に2回、の発掘調査を行なった。この発掘で後期旧石器時代前半期の石器41点が出土した。従来ものを含めて3組の接合資料が含まれる。石器として使用したと推定される二次加工剥片、折断剥片、そして石器素材となる剥片などである。これらは八風山産と推定される無斑晶質安山岩を石材としている。